

## 46 ヨハネ 14章 1-14節

※最後の晩餐があり、イスカリオテ・ユダの裏切りもありました、そしてペテロのイエス否定の預言もありました。マタイ、マルコ、ルカの諸福音書によると、どれもその後ゲッセマネの園への移動、そこでの苦悩の祈りの様子、そしてユダの裏切りの実現、そして十字架…へと進んで行くのですが、ヨハネの福音書だけが「14-17章」をかけて「父のみもとに行く道であるイエス」「もうひとりの助け主、聖霊の約束」「まことのぶどうの木であるイエスにとどまること」「聖霊の働き」「悲しみが喜びに変わる」「わたしはすでに世に勝った」「弟子たちのための祈り」などの教えが記されているのです。ぜひその緊迫した時間的、心情的背景を心しながら、これからの話題に耳と心を傾けて学びましょう。

ここでは、「イエスこそが父の現れであり、父のみもとに行く道である」ことについて教えられています。

1、1節の御言葉はクリスチャンが常に心している必要のある御言葉です。書き記し、暗唱してみましょう。

2、2.3節には、これから父のみもと（天国）に戻られ、そこで何をするか、そして用意が出来たらどうされるのか…ここにはのちの再臨の約束まで語られています。

- ・「父の家」には何があるのですか？
- ・イエス様はそこに戻られ何をする（用意する）と言われてますか？
- ・用意が出来たらどうすると言われてますか？

※当時の弟子たち（トマス、ピリポ）には、それが分からなかったということです（4-9）。現在の私たちの与えられている光、知恵、知識はすごいものだと言えないでしょうか？

4、イエス様はご自分をどういうものだと言っていますか？（6）

- ・これをあなたなりの言葉で解説してみましょう。

5、私たちが聖書を読み、イエス・キリストについて知ることの意味を考えてみましょう。

- ・聖書を読み、イエス・キリストについて知り、イメージするその姿は誰のことでしょうか？（7-10）

- ・11節の御言葉を書き記しましょう。

※あなたは聖書のうちに書き記されてあることが真実と信じますか？そしてそれがあなたのうちにもなされるものであるとも信じますか？それを信じる方は 12-14のイエス様の約束を書き記し、心に刻みましょう。

6、イエス様はどのようなお方ですか？